

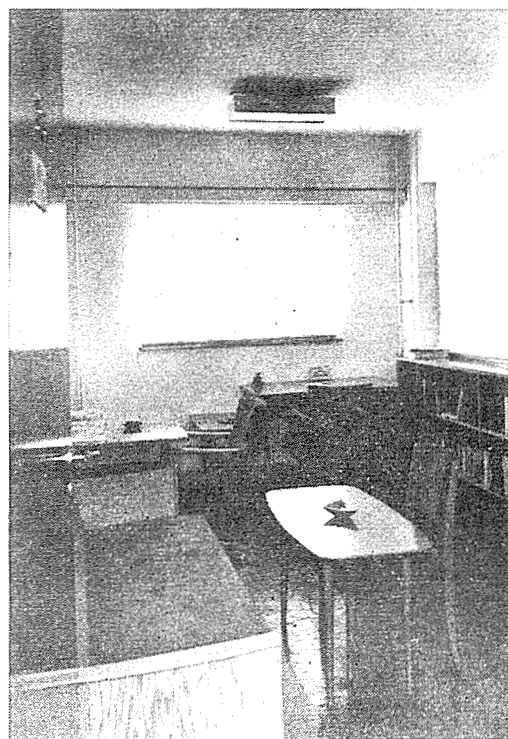
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, June 30th, 1959, No. 328.

# 關西大學學報

昭和34年6月 第328号

昭和二十六年十月十五日 第三種郵便物認可  
昭和三十四年六月三十日 発行（毎月一回三十日発行）  
通卷三二八号



研究室個室（新築法文研究室）

關西大學出版部

# 日本会計研究学会第十八回大会記

植野郁太

商学部教授

質を探究するにあたり、分析の基礎として「企業体理論」の立場をとる。すなわち、企業体と利害者集団

との取引関係において「持分」概念が成立する。故に企業体をとるべくすべての集団が「持分」を有する。さらに企業体自身の持分がある。企業体理論においては、企業体持分と、それ以外の持分とを区別することこそ重要である。

## 二、資産持分と資本持分

東京大学 江村 稔氏

従来、持分の概念には、資産持分と資本持分が混同されていた。正しい議論は資本持分について展開されるべきである。

貸借対照表が「資本」の投下、回収状況を示す損益計算的報告書たる本質をもつことを考察し、そこで出てくる維持回収すべき金額としての「資本」、あるいは株主に配当できない金額等が如何なるグループの人々に帰属するかという問題を、資本持分の具体的内容とする。

## 三、工事負担金収入の性格

一橋大学 西川 義朗氏

(エキイテイの概念を中心とする) 資本会計理論の問題的、(例えば主体持分等)の反省と見解を現実問題からのアプローチするため、また(資本会計と資本計理との)ボーダーライン上にある問題、狭義の資本と

去る五月二十一日より三日間、本学千里山学舎において、日本会計研究学会第十八回大会が開催された。

大会日程は、第一日(二十一日)の午前中に常務理事会、理事会、会員総会、午後自由論題研究報告、夜に晩餐会、第二日(二十二日)の午前中に統一論題研究報告、午後自由論題研究報告、第三日(二十三日)の午前中に自由論題研究報告、午後公開講演が行われたが、全国の各大学から参集した三〇〇名に近い多数の会員の出席を得て終始盛會裡に大会を終了した。

つぎに、統一論題の各研究報告の概要、各円卓討論会における討議の内容、並びに公開講演会における各講演の要旨を掲載するが、今日の会計学の動向、特にその重要な問題点について些かでも概略を知るよすがとなれば幸せである。

## 1 統一論題研究報告

統一論題は 一、資本会計 二、原価管理 三、企業会計と税務会計の三つが準備され、研究報告が行われた。

### 一、資本会計(於第二会場)

#### 一、持分の本質とその分類

―企業体理論と持分概念―

東北大学 高松 和男氏

会計学における基本概念の一つである「持分」の本

負債、あるいは両者のいずれかに属する問題としての現実的な問題として工事負担金を研究する。持にその会計上における性格、機能、それにもとづく会計上の地位という本質的問題に限定して報告。

会計理論上の性格について種々の説があるが大別して、①利益説、②資本説に分け、さらに前者は収益説、将来の損失補填の意味においての前受収益説、さらに内容的にみて減価償却費前取説、後者はさらに資本剰余金、負債性引当金説、そのいずれにも属さない性格のものとして説明。

## 四、資本会計と会計主体論

神戸大学 丹波康太郎氏

損益会計論に対立した資本会計論、損益会計のささえとなつた資本会計と考へる。また企業会計を財務会計の面と管理会計の面とにおいて考へ、前者が出資者の見地に結びつくのであるが、しかしこれは企業自体の主体が出資者、または株主の集団とは考へない。

出資者が企業に資金を提供し、それが企業の資産になる。そこで出資者は今までもつていた所有権を失う。そこで出資者は包括的な請求権をうる。このクレームが持分である。

### 二、原価管理(於第一会場)

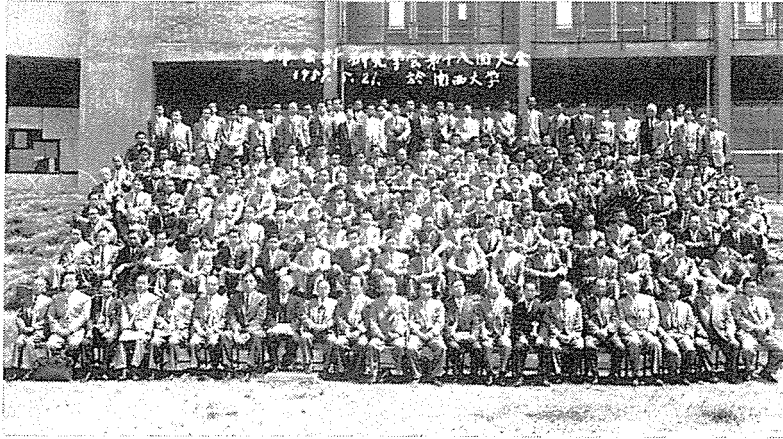
#### 一、原価管理と利益管理の關係

―製造間接費の管理を中心として―

神戸大学 溝口 一雄氏

標準製造間接費の算定の基礎としての製造間接費予算を原価管理および利益管理問題の接点として取り

上げる。特に問題となるのは、予算の基底としての操業度を正常操業度とするか、予定操業度とするかであるが、標準原価計算と予算との有機的結合をはかるためには予定操業度を採るべきである。このような観点から標準製造間接費の算定、製造間接費予算とその基底となる操業度の問題、固定予算と変動予算の概念、機能についての再吟味、標準原価制度における製造間接費差異分析の意義についての検討を行う。



記念写真 (第三学舎前)

## 二、試験研究費及び開発費 の原価管理

和歌山大学 本田 利夫氏

試験研究及び開発活動が経営組織における重要な職能となる場合、これを所期の方向に導き、予定の効果を上げるため、経営管理上の計画化と指導の必要があるとともに、設定された目標から逸脱することを防ぐため絶えず管理する必要がある。試験研究及び開発費の管理は製造活動の原価管理とは異り、販売費や管理費、特に広告費の管理と類似した性格をもつ。その原価管理は当面の試験研究及び開発の個別計画に対し、予算上承認された金額で賄うために原価発生に先験的に影響を与えることと発生した原価を個別計画別に総括する前に、責任者別に把握する必要があるが、経済性の管理よりもその指導機能に重点がおかれる。

## 三、原価管理と標準原価

中央大学 今井 忍氏

原価管理は、技術的生産諸条件について、経済的合理性を追求すること、いいかえれば技術的生産諸条件の経済的効率(原価効率 Cost efficiency)を測定することによつて、経営全般、特にその生産過程の合理化をはかることにその目的がある。すなわち、科学的管理法の「Planning and Control」の原理に従つて、原価を計画し、原価標準を設定し、管理統制する管理技術が原価管理である。従つて経営諸活動のうち、製造活動(実施機能)の機能原価 Functional Cost について、その原価標準を設定せられ、その原価標準と実際原価との差異を分析し、その例外的事項を管理するのである。

## 四、経営の管理と 原価数値の利用

AAA原価委員会の諸報告に関する  
批判的考察を中心として

横浜国立大学 山辺 六郎氏

米国会計学会(AAA)の原価委員会の、一九四七年度・一九五一年度及び一九五五年度の諸報告における原価管理概念を検討しながら、五一年度報告は原価計算基準の立場から Cost Control を説明したものであり、五五年度報告は管理会計基準の立場から Costs for control を説明し、事前管理をも重視した新しい方向を示した点を明らかにする。すなわち、管理目的のための原価には次の三つがある。

- (1) 情報伝達の手段としての原価  
(Costs as a Communication device)
- (2) 誘導の手段としての原価  
(Costs as a device for motivation)
- (3) 業績評価の手段としての原価  
(Costs as a appraisal device)

原価管理は原価を予定限度内に抑えてゆくことである。これに対し、原価節減は原価をそのような限度より下に切下げたことを目的とする。原価管理と原価節減を結びつけたものをコスト・マネージメントと呼ぶ。

## 三、企業会計と税務会計 (於第三会場)

### 一、税務会計の構造

中央大学 富岡 幸雄氏

税務会計の実践的構造は、企業の提供する財務諸表を基礎に、租税目的から重疊的計算的な方式により

課税所得を誘導計算的に把握する調整計算的構造をとる。税務会計の理論的構造は、1 企業会計と税務会計の関連、2 税務会計の重畳的理論構造、3 その調整的理論構造に分けて説明する。税務会計の計算構造として次の計算的方式を示す。

$$\begin{aligned} & \text{企業利益} - \text{課税除外所得} - \text{課税除外利益} \\ & + \text{非控除損金} - \text{控除許容損金} \\ & = \text{課税所得} + \text{課税加算益金} \end{aligned}$$



開会する植野教授（講演会）

## 二、税法上における

### 企業所得概念の特質

京都大学 岡部 利良氏

税法上の企業所得概念は、厳密な意味における期間的な所得というよりは、期末に残存しているものである。このようになるには、とくに「総損金」に問題がある。税法の基礎については、シャンツの純資産増加説が流布しているが、シャンツ自身は、期末の純財産増加分と期中の所得とは区別している。

勤労所得の場合は、原則として期間中の所得が全部総計されたものという所得概念になつて、最低生活費

を控除するにすぎない。以上のことから、資本の場合には労働の場合より有利な方法がとられているといえる。かかる所得概念の構成の仕方において反省が必要ではないか。

## 三、配当金に関する課税問題

国税庁 松井 静郎氏

配当金に対する現行の課税制度、並にその考え方について、内外の事情を比較して説明し、次の二点について研究すべき問題があることを指摘する。

一、配当金から控除する借入金の子の利益の問題については、利子を控除することの可否、および控除することを可とするればその方法を検討する必要がある。

二、法人が支払いを受けた配当金を益金から控除する場合に、大法人—企業と経営が完全に分離した法人から受ける配当金と、個人企業的な法人から受ける配当金とを区別する必要があるのではないか。

## 四、国民所得、事業所得、

### 課税所得

関西学院大学 青木倫太郎氏

税務会計では、税の本質的理解が必要である。その一つの方法として社会会計がある。

社会会計の政府勘定では、リアル・フローに無償用役の評価の問題があり、これに照応してファイナンシャル・フローに不償意思というものがある（イヌラエル大学ガーンンによる）。この無償用役ないし不償意思に対する貨幣的表示による換算について、会計学にたいしては個別経済所得の認識と測定を分担させている。会計学は損益法と財産法でこの個別経済が所得の測定を受け

た所得金額にたいして、税率がかけられて税収確保の原則が打ち立てられている。

## 2 円卓討論会

つぎの一、二、三、の三つに分れて行われた。討論の課題は統一論題と同じである。

### 一、資本会計（於第二会場）

座長 番場嘉一郎氏

討論をするにあつて論点を明瞭にしよる意味から座長が次の如くまづ整理されその順序で進められた。

- ① 持分の概念 ② 持分会計（資本会計）理論の基礎
- ③ 持分の分類 ④ 持分の金額的表現 ⑤ 自己株取引、株式の払戻、償還と資本剰余金の取崩等持分の区分計理 issue equity theory と entity equity theory に関して
- ⑥ 工事負担金を中心とする贈与剰余金の性格 ⑦ 評価替剰余金の性格

先ず①、②に関して、高松氏、江村氏、丹波氏より午前中の報告要旨を説明。ついで「持分」をどういふふうに理解すればよいかという点で討論。木村氏（東京大）が高松氏の利害関係者持分と主体持分とに分類したとき、それに共通の「持分」の概念はどういうことになるか。

等、の質問を皮切りに、△企業体自身の持分、△「持分」の概念を規定するメルクマールは投資か、請求権か、△主体の経理意識等について質問が出、高松氏、江村氏から答弁。

次に③に関して、まず高松氏、江村氏、西川氏から要旨説明。ついで△江村氏の報告における維持回収すべき資本等の分類に関して、△高松氏の「持分」の分類の意義、△財務会計全体の仕方としてではなく、特

に資本会計において持分会計の立場から理解しようとする意図△利害者集団の利害の対立における現在株主と将来株主の対立の問題、等について質問

次に⑤について、丹波氏より説明。△減資差益に関して。△転換社債に関して質問。丹波氏より答弁。

次に⑥について、西川氏より説明、△設備のサービ  
ス、低料金、設備補充、減価償却費の補償等に工事負担金  
が使用される場合の性格に関して質問。西川氏より答弁。

右以外の問題点、特に固定資産の評価差額の性格に関して  
は時間の関係で割愛されたが、これらの討議が資本会計の問題解決のための一里塚となるべき有意義な  
討論会であった。

## 二、原価管理（於第一会場）

午前の統一論題の各報告者がそれぞれ数分間ずつ報告概要と補足的説明を述べ、これに対する質疑及び意見の発表に入った。主として問題とされた諸点を各報告者別に拾えば次のようである。

### 一、溝口氏を中心とする討論

○変動予算の概念について。○生産の種類が異なる場合の見積原価と標準原価の原価管理上における違いについて。○標準原価、原価標準の設定はプランニングの問題かコントロールの問題か。

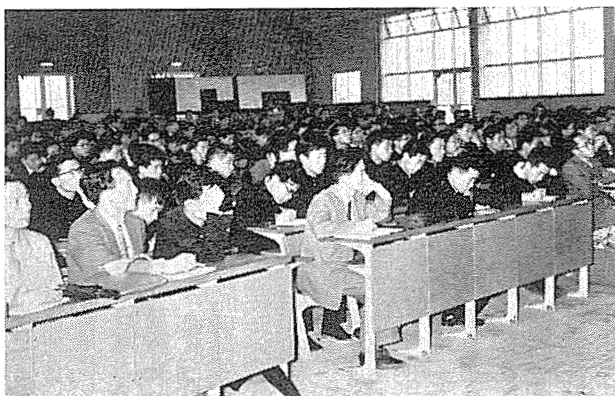
### 二、木田氏を中心とする討論

○応用的な研究例えば試作費の管理の場合には標準による管理が出来るか否か。○製品工具に関しては物  
的な標準原価的管理が出来るかどうか。

### 三、今井氏を中心とする討論

○一定の設備能力のもとでのコスト・リダクションを目的とするコスト・コントロールと、トップマネー  
ジメントのプランニングの問題としてのコスト・リダク

ションとの領域区分について。○「管理の総合化」の内容について。○「経済的効果」の意味について。



講演会場（第三学会講堂）

### 四、山辺氏を中心とする討論

○コスト・コントロールの概念について。○間接的管理としての業績管理（インジカン・マネジメント）、なにかんなくコスト・コントロールと直接的な業務管理（オペレーティング・コントロール）との手段目的関係について。○インフォメーションを用いての管理が間接的という意味について。○ライン管理者の行う原価管理は間接的管理か。○原価管理ではどこまでを業績評価というか。○割当予算の場合の業績管理について。○ジョイント・コストの業績評定について。

なお、○原価管理において利子費用管理はどのような地位をしめるか。○経営管理の手段としての原価管

理と純利益管理のための原価管理との関係その他について、活潑な討論が行われ盛会のうちに終了した。

## 三、企業会計と税務会計（於第三会場）

座長 波 辺 進 氏

午前の報告順に、簡単な要旨説明が行われた後、各報告者中心の質疑応答がかわされ、最後に総括的討論が行われて盛会のうちに終了した。

### 一、富岡氏を中心とする討論

○税務調整計算がすなわち税務会計であるか、○企業会計と税務会計の関連、○税法的な要求が現在の企業会計に干渉しているか否か。

### 二、岡部氏を中心とする討論

○期中の所得の順次の合計と、一期間を通算した合計とは一致するか否か、○収益より差引く「損金」の妥当性、○所得課税と収益課税の適否、○企業所得と個人所得の間に不公平があるか否か、○給与所得控除の根拠、○法人税法第九条の総益金、総損金の解釈、○株式会社の税法上の理解。

### 三、松井氏を中心とする討論

○全株所有の子会社の配当金は親会社と連結して、親会社の所有とすれば如何、○大法人、小法人を区別することは、税法の経済政策に反しないか、○負債で無配当株を持った場合の利子の処理、○自社の配当金の処理、○同じ利益処分たる配当と賞与を税法上区別する根拠、○大法人——實在説、小法人——擬制説をとつた場合、二重課税の問題は残るか否か、○税法と通達および解釈との関係。

### 四、青木氏を中心とする討論

○社会会計の用語につき、二、三概念を明確にするための質疑、○社会会計と納税義務者の見地の関係、

別個のものであるか否か、○租税を政府の無償用役と対応するというのは租税応役説の再現であるか。○税務行政の実態からは、社会会計的アプローチも要求されるという意見。

### 五、総合的討論

○無償用役の計算原理、○無償用役が政府の行政費により規定されるとすれば、行政費の公正妥当性が税を規定するか、○税務申告調整のみで税務会計は変わるか、○確定決算と税法規定の関係、○勤労所得税は企業負担となつてゐるから、労働という原価要素の使用に課せられる取引税と考えられないか、○源泉徴収の納期と企業の資金源。

\* \* \*

## 3 公開講演

### 配当可能利益について

中央大学 太田 哲三氏

イギリスの古い会計学では配当可能利益が会計の目標であつて配当できない利益は計算したところで意味がないと考えられている。この古い考え方の中から新しい意義を引き出すことができる。

配当利益を決定する限度は現金有高、企業外に流出してさしつかえない資金の有多であり、しかし、利益が発生すればそれだけの現金が余るのが普通であるが、運用資本の増減のために、利益によつて増加した現金が所要資本の補充に使用されることになつて利益が出たほどに現金有高がない。かくて計算上の利益は全部配当に充てることはできないで圧縮されて配当利益になる。とすると、それは仮想的な利益である。それゆゑ、利益計算によつて回収維持されるべき資本は

経営の能力を維持するために必要なものでなければならぬ。経営の実体、経営の生産力を維持するに足る留保をした後の余剰が利益として計算されるべきであり、かかる利益の計算が会計の本当の目的である。

### 減価償却における

#### 費用配分理論の限界

九州大学 馬場 克三氏

動態論ではすべての資産をいまだ費用にあらざるものとして説くために本来動態論の基礎にあるはずの資本の運動が忘れられ、また資産の機能的な区別が無視されてしまふ。しかし、流動資産の費用化した部分例えば原料費は損益計算に計上されて収益から回収されるので、回収代金は直ちに原料再購入資金として使用されるので、流動資本の投下、消耗、回収、再投資という連続過程が保証されるが、減価償却費が損益計算に計上され収益から回収されても回収資金は直ちに固定資産再調達に使用されないで減価償却の基金を形成するので、前記のような連続過程が中断される。ところが、動態論においては減価償却費を損益計算に計上さえすればそれで仕事が終つたという建前になつてゐる。会計は企業資本の運動を漏れなく正確に写しとる必要がある。基金として形成されたものがどう処理されているか、償却をした後の資金の行くえがどうなつてゐるかを会計上表示する方法が考えられるべきであり、固定資本の投下、消耗、回収、代置という連続過程を確保するために私的な減価償却制度を社会的制度とすることも考えられるべきである。

\* \* \*

## わが国銀行財務諸表

### 構造の問題点

一橋大学 片野 一郎氏

国立銀行創設時から銀行は公告財務表と大蔵省提出財務表とを作成したが、前者は「銀行簿記精法」の様式を踏襲し、三つに区分され損益勘定表という区分は利益処分計算であり貯蓄金という区分は剰余金計算書である。後者は精法以外に源泉をもち、その「利益金割合報告」は損益計算書と利益処分計算書との合体形態であるが、この構造は明治十年の法定財務諸表の基礎になり、また明治二三年の銀行条例に準拠する私立銀行の大蔵省提出財務表中の「損益表」にも承継され、爾後の損益計算書構造にも絲をひいてゐる。

明治二三年制定の商法の商業帳簿規定は財産に市価を付して示すことを要求したので、既成の「半季実際報告」と商法上の財産目録、貸借対照表とを調整して単一内容とした「資産負債表」が考案された。

大正五年の銀行条例施行細則改正により利益処分計算書を分離したさい前期繰越利益金が損益計算書に残されたので、「当期純益金」は前期繰越金と当期純利益を合体した処分可能利益になつた。昭和二年の改正でも損益計算書に前期関係項目を入れる点は修正されないので当期利益金と当期純益金の二つの用語を使い分けすることで処分予定利益と当期営業利益を分別表示する様式が考えられた。

現行法定損益計算書については、純損益計算書の報告に限定すべきであり処分可能利益計算と処分財源提案は除去して示すことが望ましい。

# 学内報

## 第一学舎研究室落成式

研究室の整備は去る昭和二十六年より継続事業として着々進められ、既に大学ホール研究室と第三学舎経済学部、商学部研究室とが完成したが、この程昨年五月から工事にかかった第一学舎法学部、文学部研究室が竣工し、五月六日(土)午後十二時半より落成式が、大学役員、評議員、教職員、学生代表ら多数参列して、盛大に挙行された。

新研究室は第一学舎の北西角に隣接し、鉄筋コンクリート造四階建一部地階付で、建坪一七一坪四四となつており、研究室は六十四室、合同研究室八室ある。

## スタンフォード・セミナーへ

池田局長 参加

ロックフェラー財団援助の下にスタンフォード大学商学大学院で開催される「日本私立大学管理者セミナー」(Seminar for Business Managers of Japanese Universities, Stanford University)に本学が再び招聘され、学務局長池田信之助氏が参加、六月十六日大阪発、同十九日羽田発バン・アメリカンで渡米した。

去る昭和三十三年夏のセミナーには本学より久井専務理事が参加した。なお、今度のセミナーに参加招聘を受けた大学は、関東では慶応、早稲田、法政、中央、明治、青山学院、学習院、国学院、関西では本学、立命館、同志社、竜谷等

である。

## 故岡本弁護士追悼記念

学術講演会

東西学術研究所で

極東国際軍事裁判の特別弁護人であり、その所蔵の同裁判記録を本学東西学術研究所へ寄贈された故岡本尚一氏が逝かれて早や一年になるので、同研究所では追悼を兼ね感謝の意を表するため、六月十七日午前九時より千里山第一学舎で「追悼記念学術講演と追憶談話の会」を開催。講師には清瀬一郎氏に懇請し、遺族との追憶談話会やティー・パーティが開催された。

## 海外の大学より

ノートルダム大学より

機関誌寄贈

ノートルダム大学法学部(Notre Dame University Law School)より、この程左記機関誌を寄贈して来たので、今後本学の機関誌と交換を行うことにした。

Natural Law Forum, Volume 4, Number 1, 1959.

ヴェトナム・アジア文化閣

係協会より機関誌寄贈

ヴェトナムのアジア文化閣係協会(Vietnamese Association For Asian Cultural Relations)から、この程協会紹介券々左の機関誌を寄贈して来た。

Asian Culture, Volume 1, Number 2, Winter 1958.

## 法学者国際委員会より

機関誌寄贈

ジュネウアの法学者国際委員会(International Commission of Jurists, Geneva)より、この程左記機関誌を寄贈して来た。なお同誌には本年一月ニュー・デリー(New Delhi)で開催された法学者国際会議(International Congress of Jurists, January 5-10, 1959)の記録が掲載されている。

Newsletter of the International Commission of Jurists, No. 6, March-April 1959.

(6頁より)

## 東淀川支部総会

大阪東淀川支部では五月十六日午後六時から梅田のニュー・ミュンヘンで総会を開く。

矢野支部長のあいさつがあり、幹事から事業経過報告、会計報告があり一同が承認した。また校友会から出席の大会会長も校友会や大学の近況をくわしく報告した。

議事のおとビールで乾杯、なごやかな宴会を開き、支部のさらなる発展を約して午後九時閉会。

## 組織部会

組織部では五月二十一日午後五時半から部会を開いて、本年度の事業計画を検討した。

その結果、近畿支部長会議を開催する



東淀川支部総会

こと、地方講演会を開く計画をたてること、学友会との懇談を続けていくこと、三点を決めた。

## 東京支部総会

東京支部ではさる五月二十八日午後五時半から上野公園の精養軒で本年度春季総会を開く。

この日は大学から山田就職部長と山影就職課長が出席、また校友会からも金本組織副部長が出席、それぞれの立場からいろいろの説明や報告があつた。

出席者は今回も五十七名に達する盛会であつた。出席者一同はきわめて愉快な一夕を楽しみ、支部の発展と、母校の発展を折つて散会。

# 学生

## 屋久島探検調査隊

### 本学探検部参加

昨年十一月三十一名の部員を以つて発足した探検部は今春四月一日より三週間、産経新聞社・大阪新聞社の援助で「文化果つる島」として知られているトカラ諸島及び種子島・屋久島の生活文化・風俗を調査する為、学生調査隊を派遣した。そして多大なる成果を収め屋久島隊は十八日、トカラ隊は二十四日に貴重な資料を持ち帰校した。尚、トカラ隊のみ大阪市立大学探検部との合同隊であつた。

### 屋久島隊

リーダー 山本義孝(四年)

サブ 油野義之介(四年)

隊員 四年 安田広志、榊井昭夫、岡本重之

三年 高岡忠臣、太田恒浩

二年 米川利爽、黒田則之、河本雄志、曾我部靖幸、竹村忠顕、寺本与司治

### トカラ隊

リーダー 竹本靖秀(四年)

副リーダー 渡辺吉和(四年)

副リーダー 吉田寿夫(三年)

副リーダー 近藤嘉彦(二年)

副リーダー 宮崎浩(三年)

副リーダー 林勝也(三年)

副リーダー 桑原利夫(三年)

## 四種目に大会新

### 陸上部

五月二十三、二十四両日大阪市立グラウンドに行われた第三十六回関西陸上競

技對抗選手権大会で、本学は各種目に善戦し、四種目に大会新を出した。戦績左の通り。

- ▽ 一〇〇m ⑤鈴木
- ▽ 二〇〇m ③八島 二三秒四 ④鈴木 ⑥吉野
- ▽ 四〇〇m ③馬場 五〇秒七 ⑤宮武
- ▽ 八〇〇m ③馬場 二分二秒九
- ▽ 一五〇〇m ③赤沢 四分四秒八 ④高橋四分五秒〇 (②③ともに大会新)
- ▽ 五〇〇〇m ①赤沢、一五分三七秒〇 (大会新)
- ②東川 一五分四四秒四 ④馬場
- ③赤沢 三分二秒二
- ④東川 三分二秒八秒四 (①②ともに関西学生並びに大会新)
- ⑤大塚
- ⑥大塚
- ⑦大塚
- ⑧大塚
- ⑨大塚
- ⑩大塚

- ▽ 一〇〇〇m ①赤沢 三分二秒二
- ②東川 三分二秒八秒四 (①②ともに関西学生並びに大会新)
- ③赤沢 四分四秒八
- ④高橋四分五秒〇
- ⑤高橋
- ⑥高橋
- ⑦高橋
- ⑧高橋
- ⑨高橋
- ⑩高橋

- ▽ 一〇〇m ⑤後藤
- ⑥吉本
- ⑦吉本
- ⑧吉本
- ⑨吉本
- ⑩吉本
- ①幅野 一四m五五
- ②幅野 一四m五五
- ③幅野 一四m五五
- ④幅野 一四m五五
- ⑤幅野 一四m五五
- ⑥幅野 一四m五五
- ⑦幅野 一四m五五
- ⑧幅野 一四m五五
- ⑨幅野 一四m五五
- ⑩幅野 一四m五五

- ▽ 走高跳 ⑤後藤
- ⑥吉本
- ⑦吉本
- ⑧吉本
- ⑨吉本
- ⑩吉本
- ①幅野 一四m五五
- ②幅野 一四m五五
- ③幅野 一四m五五
- ④幅野 一四m五五
- ⑤幅野 一四m五五
- ⑥幅野 一四m五五
- ⑦幅野 一四m五五
- ⑧幅野 一四m五五
- ⑨幅野 一四m五五
- ⑩幅野 一四m五五

戦績左の通り。

- ▽ 準々決勝 川上(関大)メ・メーコ 越智(京大)
- 堤野(関大) コー 福田(関学)
- ▽ 準決勝 川上(関大) コ・コーメ 佐藤(滋賀大)
- 神田(関大) メ・メーメ 堤野(関大)
- ▽ 三位決定戦 神田(関大) メー 堤野(関大)
- 川上(関大) コ・コーメ 白井(甲南大)
- 白井(甲南大) 堤野(関大)
- ▽ 決勝 川上(関大) コ・コーメ 白井(甲南大)
- 白井(甲南大) 堤野(関大)

- ▽ 準々決勝 瀬戸(関大) メ・メーメ 西本(甲南大)
- 長木(関大) メ・メーコ 古久保(同大)
- ▽ 準決勝 瀬戸(関大) メ・メーコ 紫田
- 長木(関大) コ・コ丸 紫田
- ▽ 三位決定戦 長木(関大) コ・コ丸 紫田
- 瀬戸(関大) メ・メーコ 丸
- ▽ 決勝 瀬戸(関大) メ・メーコ 丸

- ▽ 準決勝 古沢(関大) 五三三 片岡(大経大)
- 酒井(同大) 五三三 福田(関大)
- ▽ 決勝 古沢(関大) 五三三 福田(関大)

- ▽ 準決勝 古沢(関大) 五三三 片岡(大経大)
- 酒井(同大) 五三三 福田(関大)
- ▽ 決勝 古沢(関大) 五三三 福田(関大)

(前頁下段より)

## 学生会との懇談会

組織部では五月二十八日午後五時から学生会との懇談会を開催した。席上、校友会側は学生に校友会を認識してもらうため、今後ともできるだけ多くの懇談の機会をもつようつとめることになり、学生会側も校友会のこの活動に協力することになった。また各利益代表者との懇談会を開くことを決めたほか、種々の問題についてなごやかに話合った。

## 芦屋支部総会

芦屋支部では五月三十日、同市内「あしや園」で新卒業生を歓迎する総会を開催。この総会は新卒業生歓迎のほかに、さきほど芦屋市議に当選した校友・中田重介、加藤信之助両氏の歓迎祝賀もかねて行われたもので、なかなかの盛会であつた。

竹谷副支部長の開会の辞では、田辺支部長のあいさつがあり、つづいて芦屋支部十七年の歴史についての説明があつた。大学顧問武田蔵之助氏、評議員越智比古市氏もあいさつをのべ、校友会から活動状況報告があり議事を終了した。

このあと親睦会にうつり新旧校友の自己紹介のちながやかに語りあい午後九時半閉会した。

このあと親睦会にうつり新旧校友の自己紹介のちながやかに語りあい午後九時半閉会した。





校友 パツジ

校

友

### 校友会の動き

五月

- 一日 財務部会
- 七日 芦友会総会
- 九日 近畿電々公社開大会
- 九日 六念会総会
- 十二日 校友会会計監査
- 十六日 部長会
- 十六日 尚志会(大阪市内中学校教員開大会)
- 十六日 東淀川支部総会
- 二十日 広報部会
- 二十一日 組織部会
- 二十八日 東京支部総会
- 二十八日 学友会との懇談会
- 二十九日 連絡部長会
- 三十日 芦屋支部総会

### 財務部会

昭和三十三年度校友会収支決算のため  
の財務部会が五月一日午後六時から開か  
れ、七四四万一六〇八円の収支決算を承  
認した。なお内訳は次の通り。

本会計 四四九万六二三六円  
新聞会計 一四四万二〇一一円  
總會会計 三五万  
終身会費 一一万三三六一円  
別途会館建設資金 二万円  
(以上いずれも収支とも)

積立金 五十万円  
次期繰越金 一九万九九六五円

### 芦友会総会

大阪市中央卸売市場を戦場にする校友  
で組織されている芦友会では五月七日午  
後五時から今橋クラブで總會を開催。こ  
の日の出席者は二十数名で、校友会から  
榎本副会長が出席。

議事で、役員を改選したあと今後の活  
動方針として年一回母校から講師を招  
き、講演会を開くことや、実務家を招き  
法律、税務相談を行うことなどを決定し  
た。

榎本副会長の道路問題と会館問題につ  
いての報告説明があり、議事を終えて夕  
食会に移った。懇談のすえ午後八時散会  
した。

当日決定の役員

会長 門戸金次郎 顧問 堀越源治郎 副会長 阪  
本芳一  
なお、連絡先は左記の通り。  
大阪中央卸売市場果実問屋阪本商店内・電〇五二七  
二番

### 近畿電々公社開大会

近畿電々公社に勤務する校友で在来は  
有志懇談会をもっていたが、このほど近  
畿電々公社開大会として新しく発足する  
ための会合を、五月九日午後一時から近  
畿電々会館で開いた。

この会には会員百五十名が出席、校友会  
から門上組織部長が出席、近畿通信局落  
合副局長、井上大阪郵政局開大会代表、  
平井立命大近畿通信局同窓会長らの祝辞  
もあつて盛会をきわめた。

辻氏のあいさつのもと議事を行い、母  
校から出席の桜田教授から「最近の欧米  
の民情」と題する講演を、スライドの使  
用で、きいた。その後小宴を開き母校と  
校友会の万才を三唱して午後六時閉会し  
た。

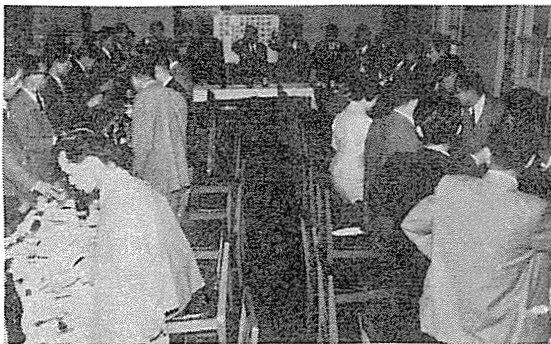
当日決定役員

会長 辻義満(監査部監査役)  
副会長 曾根義秋 大野幸一郎  
幹事 伊予田敷(総務)、林武彦(会計)、三宅平  
八郎、大芝武三、熊田敏治、大石安雄、南節次頭  
爪田英次、太子清一、前波聡男、松本一二三

### 六念会総会

大正六年卒業の校友で組織されている  
六念会では五月九日午後五時半から北区  
光風荘で春の懇親会を開催。

この日、大雨のなかを会員十四氏が元



尚志会 乾杯の記念

気な顔をそらえた。会は代表者横田氏の  
開会あいさつで始められ、大学理事、校  
友会長として活躍中の大月氏が今問題と  
なっている高速道路問題についてくわし  
く説明した。会員一同、さらに大月氏の  
活躍を祈った。そのほか大学現況などに  
ついて種々話題になり、一同色紙に寄せ  
書きしたあと、乾杯を皮切りになごやか  
に昔を語る懇親宴にはいつた。一同ほが  
らかなふん開気のうちに閉会した。

### 校友会会計監査

昭和三十三年度校友会会計収支決算を  
監査する監事会が五月十二日午後六時か  
ら梅原、鎌田、山崎三監事ならびに西村  
財務部長が出席して行われた。その結果  
三監事は七四四万一六〇八円にのぼる収  
支決算を承認した。

### 尚志会

大阪市内の中学校教員の校友で結成さ  
れている尚志会ではその二回目の総会を  
五月十六日午後三時半から千里山大学ホ  
ールで開いた。

勤務をおえた会員が母校に集まり、約  
四十名になった。大学から来賓として岡  
野学長、飯田、大小島両教授が出席して  
開かれ、鶴飼氏及び、後藤会長のあいさ  
つがあり、学長は盛大な尚志会総会に祝  
辞をのべた。校友会から出席の門上、寺  
西組織部正副部長も校友会事情、道路問  
題などについて説明した。

議事のあと恩師の話をきき、なごやか  
に恩師を囲んで懇親宴をひらき、午後七  
時ごろ散会。

(以下七頁三段に続)

關西大學法制史学会 共編  
關西大學經濟學會經濟史研究室

# 大阪周辺の村落史料

## 第四輯 五人組帳

一八三頁  
フランス綴函入 四〇〇円

五人組帳の研究は既に多く試みられているが、同じ地方のものをまとめ、同じ地方にあつても年代によつて異なることの研究にまで及んでいない。収録のものは大阪周辺の五人組帳のみをまとめた特色あるものとした。

## 第一輯 庄屋留書 既刊

## 第二輯 耕肥、拜借銀、頼母子 既刊

## 第三輯 證文集、村役人 既刊

刊行 關西大學

刊行取扱 關西大學出版部

なお、既刊各輯は貴重稀観文献の活字版として各方面の注目を受け、古書市販価格が頒布価格の約二倍となつている現状です。在庫数も残り少なくなつていきますから御入用の方は直接当部へ御注文下さい。

關西大學出版部

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可  
昭和三十四年六月三十日発行(毎月一回三十日発行)

關西大學學報 第三二八号 六月号

關西大學文学会編

## 關西大学文学論集 第九卷

昭和三十四年四月刊 A5判 一〇五頁

内容

仏文学特輯

- Le Roman de Brut について……………三木治
- フランス語の変遷雑考……………目黒三郎
- “Chartaire des Templiers de Vaour” の代名詞……………高塚洋太郎
- Chroniques Garantines の異本文……………小方厚彦
- André Gide と彼の少年達……………重本利一
- F・モーリヤックの作中人物の性格発展について……………前原昌仁
- Le Desert de l'Amour……………

關西大學經濟学会編

## 關西大学經濟論集 第九卷

昭和三十四年四月刊 A5判 八九頁

内容

- ミルの利潤起源論分析序説……………杉原四郎
- 近世における廻船に関する若干の資料……………津川正幸
- 後進国の經濟成長にたいする分配的考察について……………鶴嶋雪嶺
- 書評……………
- 福井孝治著「經濟学の基礎にあるもの」……………重田晃一
- アンドレ・ビエートル「マルクス体系の再検討」……………吉田静一
- “An International Comparison of National Products and the Purchasing Power of Currencies” O.E.C. Paris, 1954……………浜田文雅

大阪府大淀区長柄中通二丁目

編集兼 久井忠雄 発行人 關西大學出版部

電話堀川(35)二〇七三番  
振替 大阪二六七三番

印刷所 株式会社 ナニワ印刷所  
電話(35)七二七一